

目標9

市民1人1日あたりの資源物を除いたごみの排出量を平成32年度(2020年度)までに574gにします。

目標10

リサイクル率(*)を平成32年度(2020年度)までに34.7%にします。

*ごみの排出量に占める資源物の割合。資源物の対象は①資源物として回収したもの、②収集後の選別処理により回収したもの、③焼却灰の熔融化量等をごみ排出量で除したもの。

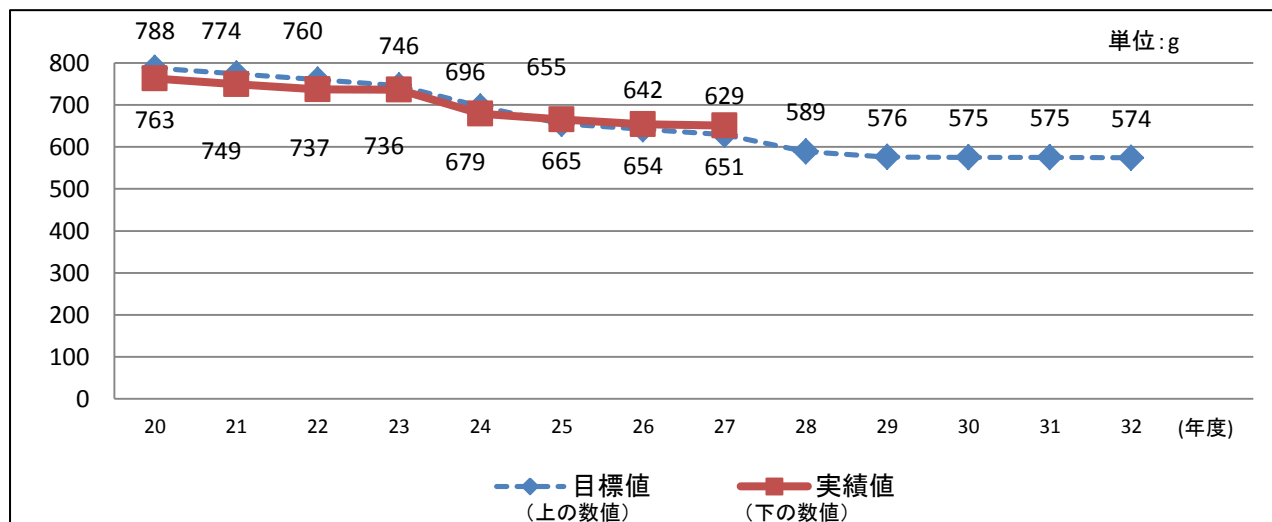
【目標担当課:資源循環課】

目標9の進捗状況

●市民1人1日当たりのごみ排出量の推移(資源物を除く)

平成27年度

651g

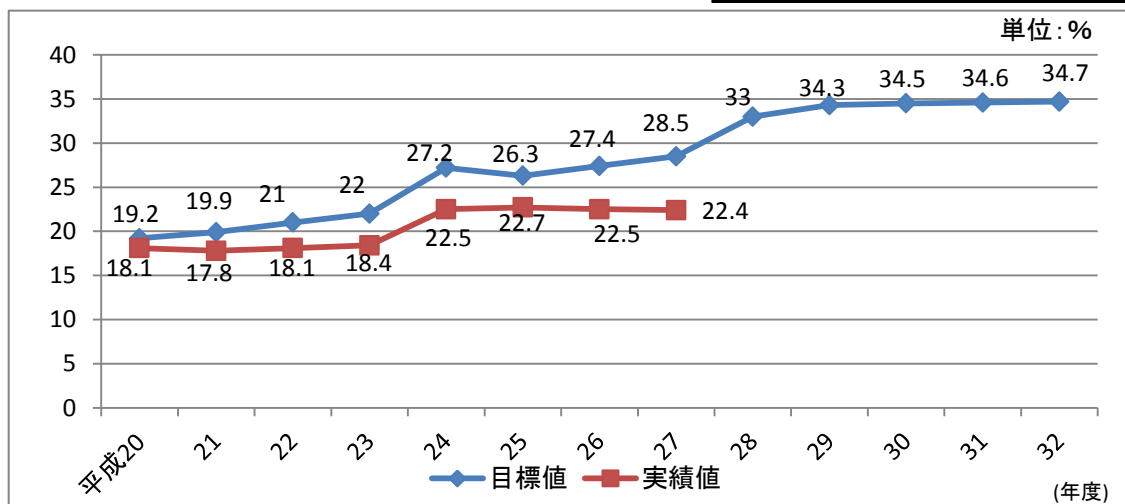


目標10の進捗状況

●リサイクル率の推移

平成27年度

22.4%



(参考)資源物排出量の推移

単位: t

		平成26年度			平成27年度		
		予測(A)	実績(B)	(A)-(B)	予測(A)	実績(B)	(A)-(B)
びん		1,753	1,855	-102	1,769	1,891	-122
かん		1,083	729	354	1,098	716	382
ペットボトル		764	719	45	774	707	67
古紙類	新聞チラシ	1,652	1,034	618	1,737	953	784
	本・雑誌・雑紙	5,406	3,703	1,703	5,676	3,632	2,044
	段ボール	2,962	2,867	95	3,023	2,889	134
	飲料用紙パック	129	65	64	139	63	76
衣類・布類		1,956	995	961	2,079	1,081	998
プラスチック製容器包装類		3,050	2,247	803	3,267	2,288	979
廃食用油		110	78	32	111	80	31
金属		126	66	60	134	73	61
小型家電		0	2	-2	0	3	-3
合 計		18,991	14,360	4,631	19,807	14,376	5,431

重点施策21 リフューズ（要らないものを買わない・断る）

■概要

- ・マイバッグ持参の普及に向けた取り組みを推進します。
- ・不要なレジ袋および過剰包装の辞退をはじめ、不要なものを「買わない」、「受け取らない」という生活様式が本市の文化として定着するよう啓発事業を推進します。

■平成27年度の取り組み

①リフューズを念頭に置いた生活様式の定着に向けた啓発事業の推進

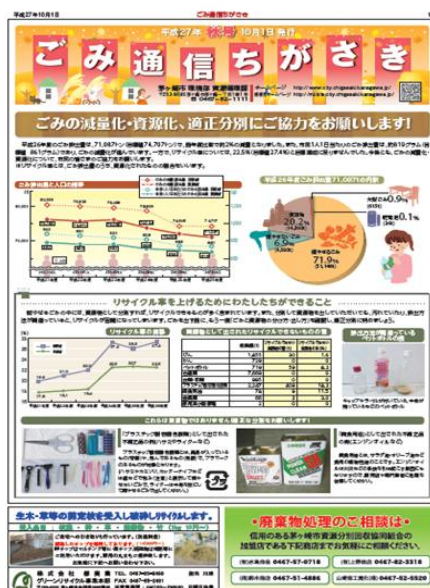
事業名	取り組み結果	担当課
マイバッグ持参や簡易包装の推進に向けた啓発活動	・「エコシティ・茅ヶ崎マイバック推進会議(※)」を通じ、不要なレジ袋の削減やマイバックの推進について情報共有しました。 ・毎年集計している大型店におけるレジ袋辞退者数について、複数年にわたる推移をまとめ、状況の把握に努めるとともにチラシの作成・配付により、買い物の際に不要なレジ袋を断り、マイバッグを持参することを呼びかけました。 ・エコウィーク(※)、環境フェア、消費生活展にてマイバッグ運動を実施しました。	資源循環課
市内事業者へのレジ袋削減の協力呼びかけ	・ごみの減量・リサイクルに積極的に取り組む販売店を「リサイクル推進店」として認定しております。平成27年度は中古品の買取、物品の修繕を行う販売店、計26店舗に対し、新規認定の働きかけを行いました。 ・認定店にアンケート調査を実施し、レジ袋の削減の協力について呼びかけました。	
ごみの排出に関するアンケート調査	・協働推進事業として、市民団体とともに「なんでも夜市」に出展し、来場者へ4Rに関するアンケートを実施し、リフューズをはじめ4Rに対する意識の定着を検証しました。	
ごみ処理に対する意識啓発事業	・ごみ通信を春号、秋号と年2回発行したほか、4Rに関する講座を平成28年度開催予定として企画しました。 ・ちがさき環境フェア2015において、ごみと資源物の処理の流れについて、わかりやすく明示した啓発用パネルを展示しました。 ・レインボーフェスティバルにおいて、物品配布等による啓発を行いました。	

■平成27年度予算執行状況

事業名	27年度予算額	27年度決算額	(参考)26年度決算額	担当課
ごみ処理に対する意識啓発事業	1,398千円	1,229千円	1,136千円	資源循環課
環境学習事業(出前授業など)	324千円	223千円	161千円	
合計	1,722千円	1,452千円	1,297千円	

■成果・課題と評価

成果	評価
・「エコシティ・茅ヶ崎マイバック推進会議」を通じ、不要なレジ袋の削減やマイバックの推進について情報共有したほか、「なんでも夜市」において実施したアンケート結果により分別意識を数値で確認ができました。 ・リサイクル推進店について、直接事業者へ訪問するなどの積極的な取り組みを実施し、事業者に対するごみの減量化・資源化にかかる啓発を推進することができました。	B A: 極めて順調に進んでいる B: おおむね順調に進んでいる C: ある程度進んでいる D: あまり進んでいない E: 積極的な取り組みが必要 -: 取り組みなし(評価不能)
課題 ・事業者、市民に対する啓発事業を強化するとともに、マイバッグの推進など、日常生活におけるごみに関する意識の向上を目指す必要があります。	



「ごみ通信ちがさき」秋号 (平成27年10月1日発行)

主な内容

- ・ごみの減量化・資源化、適正分別のご協力をお願い
- ・ごみ処理施設のご紹介
- ・小出コミセンまつりで学生さんが来場者にごみの分別について呼びかけ
- ・集積場所からの資源物の持ち去り禁止のお願い

「ごみ通信ちがさき」春号 (平成28年3月1日発行)

主な内容

- ・4Rの取り組みのご紹介
- ・家電リサイクル法対象品目のご紹介
- ・刃物やナイフなどの・鋭利な燃やせないごみに関する注意とお願い
- ・土曜日のごみの自己搬入の一時中止のお知らせ



「茅ヶ崎ハレの日パッケージ(※)」
茅ヶ崎市商店会連合会が推進している、容器・包装を減らす取り組みです。



重点施策22 リデュース（ごみの排出を抑制する）

■概要

- ・ごみの排出状況や市民活動団体等の取り組み、また「茅ヶ崎市廃棄物減量等推進審議会」における協議内容を分かりやすく周知し、行動改善を促進します。
- ・ごみ処理施設の見学等をはじめ、特に子どもを対象とした学習機会の充実を図ります。
- ・事業者に対して積極的に「ごみ減量・リサイクル推進店」制度への参画を呼びかけ、簡易包装やばら売りの推進を図ります。
- ・必要に応じて可燃ごみの有料化の導入に向けて検討を行います。

■平成27年度の取り組み

①ごみの排出状況や市民活動団体等の取り組み内容の周知と行動改善の促進

事業名	取り組み結果	担当課
「ごみ通信ちがさき」の発行等を通じたごみ処理に対する意識啓発	・平成27年度ごみ通信ちがさき春号において、4Rについて大きく取り上げました。また秋号においては不適正排出を減らす事と、施設に関する事について特集し、啓発に努めました。	資源循環課
生ごみ処理容器(※)、生ごみ処理機(※)(手動式・電動式)の普及啓発	・ホームページにおいて、引き続き生ごみ処理容器および家庭用生ごみ処理機の補助について掲載しました。 ・「ごみ通信ちがさき」や市広報紙で生ごみ処理容器・家庭用生ごみ処理機の補助について掲載し普及促進しました。 ・5月、11月の市民まつり、9月の環境フェアおよび2月の消費生活展において啓発し、さらに農業水産課が実施する4月の園芸講習会において啓発しました。また、生ごみ処理容器及び家庭用生ごみ処理機の購入者に対しアンケートを実施しました。	
生ごみ処理容器、生ごみ処理機(手動式・電動式)の購入補助	・平成27年度は生ごみ処理容器91基、家庭用生ごみ処理機22基の購入補助を行いました。	
学校給食残さ堆肥化事業	・学校用生ごみ処理機が設置されている3校(浜之郷小学校、緑が浜小学校、鶴が台小学校)において合計4,013kgの生ごみを堆肥化(※)し、ごみの減量化を図りました。 ・市内農業者団体による給食残さを堆肥化したぼかし堆肥(※)を活用し、野菜の作付を行い、10月に行われた花と野菜のまつりにおいて活用されました。 ・市内小学校3校へのぼかし堆肥を使用し栽培した野菜の配布及び地元小学校での出前授業を実施する予定でしたが、諸事情により、未実施となりました。	資源循環課 農業水産課

②子どもを中心とした学習機会の充実

事業名	取り組み結果	担当課
出前授業や学習会の実施(学校、自治会などを対象)	・小学4年生を対象に出前講座「茅ヶ崎市のごみと資源物の分別方法やごみ収集車パッカー君の仕組みを学ぼう!」を6校にて実施しました。	資源循環課
「パッカー君のごみ探検」の配付	・小学4年生を対象に、ごみの減量化や資源化について易しく紹介した副読本「パッカー君のごみ探検」を2,328部配付しました。	
ごみ処理施設見学の実施	・自治会等を対象に寒川広域リサイクルセンター(※)、環境事業センター、最終処分場等の施設見学会を94回実施しました。	



生ごみ処理容器(地上式)
土中の微生物等の働きにより生ごみを
堆肥に変換します。

③事業者に対するごみ減量化に向けた取り組み

事業名	取り組み結果	担当課
ごみ減量・リサイクル推進店(※)を活用したキャンペーンの実施	・市民まつりや消費生活展にてごみ減量・リサイクル推進店に関するパネル展示を実施したほか、ごみ減量・リサイクル推進店の活用推進を明記した啓発物品を配布した。	資源循環課
ごみ減量・リサイクル推進店の周知と加入促進	・ごみ減量・リサイクル推進店認定店に対しアンケートを実施し、店舗営業の確認を含めリサイクル推進店事業のニーズを確認しました。また、認定店以外の市内店舗へ郵送や訪問などを行い、リサイクル推進店の主旨説明及び認定の申請について促しました。	
事業者100社への聞き取り調査	・ごみ排出量が多い事業者の上位100社を訪問し、排出抑制、減量化等の啓発、集積場所等の確認および適正分別の指導を実施しました。	
事業系一般廃棄物の搬入物調査	・年間12回の事業系一般廃棄物の搬入物の調査を環境事業センターと連携して実施し、不適正排出があった場合は口頭もしくは呼出により指導を行いました。 ・不適切な排出および搬入している事業者に対して指導しました(23件)。	
多量排出事業者へのごみ減量に向けた啓発・指導	・多量排出事業者(年間約60t以上)の減量化計画書について、減量化等計画書の提出について通知し、20社より提出を受けました。また、計画書に基づき訪問による実態調査を実施しました。	

■平成27年度予算執行状況

事業名	27年度予算額	27年度決算額	(参考)26年度決算額	担当課
生ごみ処理容器、生ごみ処理機(手動式・電動式)補助事業	2,847千円	1,344千円	2,360千円	資源循環課
ごみ処理に対する意識啓発事業(再掲)	1,398千円	1,229千円	1,136千円	
環境学習事業(出前授業など)(再掲)	324千円	223千円	161千円	
ごみ減量・リサイクル推進店制度	35千円	54千円	34千円	
合計	4,604千円	2,850千円	3,691千円	

■成果・課題と評価

成果	評価
・年間12回の事業系一般廃棄物の搬入物の調査を環境事業センターと連携して実施したほか、多量排出事業者に対し、訪問して調査・指導を行うことにより、分別の徹底、事業系廃棄物の排出抑制に努めました。 ・ごみ通信ちがさき春号において、これまでと内容を一新し、より市民に関心を持ってもらうものにしたことで、市民の反応が増えました。このことから、市民のごみに対する意識の向上が図れたと考えられます。	B A:極めて順調に進んでいる B:おおむね順調に進んでいる C:ある程度進んでいる D:あまり進んでいない E:積極的な取り組みが必要 -:取り組みなし(評価不能)
課題 ・ごみの減量化・資源化について、ごみ通信ちがさきなどを通じて啓発を行っていますが、特に子どもに対する啓発を強化する必要があります。子どもでもわかりやすく、楽しく学べる講座等を企画していきます。 ・生ごみ処理容器および家庭用生ごみ処理機の補助件数は、平成26年度は増加傾向にありましたが、平成27年度は減少しました。平成3年から実施していることから、市民への周知が浸透していると考えられ、今後、補助のあり方等について、ニーズを把握していく必要があります。	



環境事業センターにごみを搬入をするパッカー車

重点施策23 リユース（繰り返し使う）

■概要

- ・家庭用品の再利用を促進するため、各種制度や取り組みの運営推進に努めます。
- ・リサイクルショップやリターナブルびん取扱店、リペアショップ等の情報を市内のリサイクル推進店情報に集約し、市民・事業者に発信することで資源の有効活用とごみの減量化を図ります。

■平成27年度の取り組み

①家庭用品の再利用促進、各種制度や取り組みの運営推進

事業名	取り組み結果	担当課
リユース家具の提供	・リユースの促進のため、収集した大型ごみの中から再利用可能な家具類を修理・再生し、リサイクル品展示室に展示し、希望する市民へ提供しています。（申込者多数の場合は抽選） ・1月を除く11か月で385点のリサイクル家具を提供しました。 ・リサイクル家具を市民に提供した際に寄付をいただく寄付制度について検討を行い、平成28年度から実施しています。	環境事業センター
不用品登録制度(※)(不用品バンク)の周知と推進	・広報ちがさき、ホームページ、環境フェア、なんでも夜市等で周知を行いました。 ・平成27年度の成立件数は「ゆずります」94件「ゆずってください」8件となりました。	市民相談課
出前授業や学習会の実施(学校、自治会などを対象)	・小学4年生を対象に出前講座「茅ヶ崎市のごみと資源物の分別方法やごみ収集車パッカー君の仕組みを学ぼう！」を6校にて実施しました。 ・廃食用油を再利用したキャンドル作り教室をリサイクルセンターで開催し、小学生、保護者含め19名の方に参加いただきました。併せて資源物がどのように再商品化されているか等講義しました。	資源循環課
「パッカー君のごみ探検」の配付	・重点施策22をご参照ください。	
ごみ処理施設見学の実施	・重点施策22をご参照ください。	
FKP(古本回収プロジェクト)	・市立梅田小学校の6年生および担当教員、ブックオフコーポレーション株式会社のご協力のもと、「ちがさき環境フェア2015」において実施しました。 ・会場で集めた古本をブックオフコーポレーション(株)に買い取ってもらい、その売却益を環境に関する基金に寄附していただきました。	環境政策課 資源循環課

②リユースについての情報集約・発信

事業名	取り組み結果	担当課
「ごみ通信ちがさき」の発行等を通じたごみ処理に対する意識啓発	・重点施策22をご参照ください。	
リサイクル市やフリーマーケット等でのリサイクル品の展示、4Rの啓発等の提供を目的とした取り組み	・協働推進事業として、市民団体とともに「なんでも夜市」に出展し、パネル展示やリサイクル品展示を通じて「リユースを中心とした4R」を啓発しました。	資源循環課
ごみ減量・リサイクル推進店を活用したキャンペーン	・重点施策22をご参照ください。	
ごみ減量・リサイクル推進店の周知と加入促進	・重点施策22をご参照ください。	
リユースの促進に向けた新たな取り組み	・パネル展示やリサイクル品展示を通じた「リユースを中心とした4R」の啓発を「行政提案型協働事業」として実施しました。 ・より多くの方にリサイクル品展示室を利用いただくために、広報活動の強化、広域連携の可能性を模索しています。平成27年度は、統一したイメージのポスターを作成し、本庁舎のデジタルサイネージを利用し来庁者への周知を行うとともに、「平成28年度ごみと資源物の分け方・出し方」にリサイクル品展示室の広告を掲載しました。また、リサイクル品展示室の寒川町との広域運営を協議しています。	資源循環課 環境事業センター 市民相談課

■平成27年度予算執行状況

事業名	27年度予算額	27年度決算額	(参考)26年度決算額	担当課
ごみ処理に対する意識啓発事業(再掲)	1,398千円	1,229千円	1,136千円	資源循環課
環境学習事業(出前授業など)(再掲)	324千円	223千円	161千円	
合計	1,722千円	1,452千円	1,297千円	

■成果・課題と評価

成果	評価
・古本回収プロジェクト(FKP)によって買い取っていただいた金額は6,730円に上り、太陽光発電設備普及啓発基金と緑のまちづくり基金に寄付していただきました。取り組んだ児童からは「準備は自分達だけでなく、下級生にも手伝ってもらいみんなで進めた。当日は来場者に上手く説明できないこともあり、接客の難しさを実感したが、今回の活動で色々な経験が出来てよかった」との感想があり、教育の場としても有意義なものとなりました。 ・不用品登録制度については、インターネットオークションやリサイクルショップの普及もあり、登録件数の減少が近年続いています。 ・ごみ減量に関する意識向上のため来年度に向けて食のリユースの講座を企画しました。	C A: 極めて順調に進んでいる B: おおむね順調に進んでいる C: ある程度進んでいる D: あまり進んでいない E: 積極的な取り組みが必要 -: 取り組みなし(評価不能)
課題	
・リサイクル推進店については、認定された後のPR事業や、啓発等の情報発信を検討し、より市民や事業者へ周知していく必要があります。	

茅ヶ崎市協働推進事業 「リユースを中心とした4R促進事業」

ごみの減量化・資源化のため
4R の取り組みのご協力をお願いします。

4Rとは?

リフューズ Refuse
いらないものを**買わない**。
いらないものを**断る**。
不要なカトラリー類などの**配達を断りましょう**。
レジ袋をできるだけ**断り**。
マイバッグを利用しましょう。

リデュース Reduce
ごみの排出を**抑制する**。
すぐにごみになるようなものをつくらない。
すぐにごみになるようなものを**買わない**。
ごみの減量化・資源化に取り組んでいる
店舗の利用を心がけましょう。
生ごみを捨てる前に水分をよく切りましょう。
野菜くず・食べ残しは出さぬようにしましょう。

リユース Reuse
繰り返し使う。
ものを大事に使うことで、貴重な資源を有効利用できます。
使わなくなったものを、修理したり他の人に譲ったりできないか考えましょう。
商品を購入する際、繰り返し使えるものや長く使えるものを選びましょう。
フリーマーケット・バザーなどの利用や出店などへ参加する。
出かけるときはマイボトル・マイタンブラー・マイ箸を持参しましょう。

リサイクル Recycle
資源として再利用する。
資源物が生まれ変わることです。
資源物を出すときは、**きちんと分別**して出しましょう。
詰め替え用品やリサイクル品など、
環境に与える影響の少ない製品の購入を心がけましょう。
排出マナーを守りましょう。

リフューズ Refuse
リデュース Reduce
リユース Reuse
リサイクル Recycle
という4つの言葉の頭文字の **R** をとったものです。

茅ヶ崎市 環境部 資源循環課・環境事業センター
市民安全部 市民相談課
認定 NPO 法人 湘南心さわシニアネット



なんでも夜市における4Rのチラシ
と夜市での様子

重点施策24 リサイクル（資源として再生利用する）

概要

- ・資源物における分別品目の拡充を図ります。
- ・食品残さの循環についてより身近に意識してもらえるよう、市民農園や家庭菜園を対象にコンポスト(※)設置と利用を啓発し、実施可能な資源化施策の推進を図ります。
- ・バイオガス化の検討を行います。

■平成27年度の取り組み

①資源物における分別品目の拡充と情報発信

事業名	取り組み結果	担当課
「ごみ通信ちがさき」の発行等を通じたごみ処理に対する意識啓発	・生ごみ処理容器の利用促進を図るため、「ごみ通信ちがさき」等を活用して啓発活動を行った結果、91個の販売を達成しました。	資源循環課
「ごみと資源物の分け方・出し方」、「ごみと資源物の収集カレンダー」の発行	・環境事業センターと連携し、よりわかりやすい分別方法を掲載する等の工夫を行いました。	
出前授業や学習会の実施(学校、自治会などを対象)	・重点施策22をご参照ください。	
「パッカー君のごみ探検」の配付	・重点施策22をご参照ください。	
ごみ処理施設見学の実施	・重点施策22をご参照ください。	
適正分別のための啓発、情報提供	・年に2回、ごみ通信ちがさきを発行し全戸配布することで情報提供を行いました。また、適正分別を推進するための看板の作成やイベントにおける啓発も継続して行いました。	
集積場所における排出指導	・集積場所に設置する看板の作成等を通じて継続して排出指導・啓発を行いました。	
環境指導員、環境事業センターとの連携強化	・環境指導員(※)会議等を通じて定期的に意見交換の機会を設けました。また、そのほかにも資源物の持ち帰り通報や集積場所に関する悩みへの相談について環境事業センター連携のもと随時取り組みました。	
使用済小型家電の収集(※)	・新たにハマミナ出張所、松浪コミュニティセンター、香川出張所に回収ボックスを設置し、26拠点での回収を行い、3,072kgの使用済小型家電を収集しました。 ・市ホームページを活用し情報発信を行いました。	
ごみ減量・リサイクル推進店の周知と加入促進	・重点施策22をご参照ください。	
燃やせないごみ・大型ごみの資源化	・神奈川県都市清掃行政協議会清掃事業研究会等への出席を通じて有効な手段や問題点の把握に努めました。 ・市が収集した燃やせないごみ・大型ごみの中には資源化できる部分が多く含まれているため、処理する前に手選別および磁選機により選別し、資源化を行いました。	
焼却残さの有効利用	・焼却残さを1,800℃の高温で熔融固化することにより得られた固形物(スラグ(※))は路盤材等に利用され、また金属も回収されることから再資源化しています。平成27年度は1,143tを再資源化しました。	
剪定枝の資源化に向けた検討	・蛍光管の分別を優先して実施すべきであること、リサイクル率の上昇にかかる費用対効果の妥当性についてあらためて検討する必要があることから、次期一般廃棄物処理基本計画の策定の際に議論を進めます。	

リサイクル品展示室の活用	・リサイクルの促進のため、収集した大型ごみ等の中から再利用可能な家具類を修理・再生し、市内在住・在勤の18歳以上の方に提供(応募者多数の場合は抽選)しているリサイクル品展示室の周知を行っています。 ・環境フェアにてリサイクル品展示室の出張展示を行いました。また、市民まつりやレインボーフェスティバル等の催事で実施しているエコステーションでリサイクル品展示室の情報提供を行いました。 出展数385点 引取件数362件 申込件数2,985件	環境事業センター
紙リサイクルBOXの配布	・希望者に無料で配布しました。 ・名刺やメモ用紙など大きさが異なるものをまとめやすいため、可燃ごみと紙類の資源化の促進が期待できます。	環境政策課 資源循環課
インクカートリッジ里帰りプロジェクト	・市役所本庁舎等3箇所でインクジェットプリンタ用の使用済みインクカートリッジを回収し、リサイクルを推進しました(回収実績:55.73kg)。	環境政策課

②食品残さの循環と実施可能な資源化施策の推進

事業名	取り組み結果	担当課
生ごみ処理容器および家庭用電動式生ごみ処理機の補助事業	・ホームページにおいて、引き続き生ごみ処理容器および家庭用生ごみ処理機の補助について掲載しました。平成27年度は生ごみ処理容器91基、家庭用生ごみ処理機22基の購入補助を行いました。	資源循環課 農業水産課
学校給食残さ堆肥化事業	・重点施策22をご参照ください。	
家庭菜園利用者に対するコンポストの利用案内	・4月に行われた家庭菜園園芸講習会において、資源循環課職員が講習会会場に出向き、現物を示しながらコンポストの利用案内、周知を図りました。	農業水産課 資源循環課

■平成27年度予算執行状況

事業名	27年度予算額	27年度決算額	(参考)26年度決算額	担当課
ごみ処理に対する意識啓発事業(再掲)	1,398千円	1,229千円	1,136千円	資源循環課
環境学習事業(出前授業など)(再掲)	324千円	223千円	161千円	
ごみ減量・リサイクル推進店制度(再掲)	35千円	54千円	34千円	
小学校の電動式生ごみ処理機維持管理	901千円	884千円	914千円	
学校給食残さ堆肥化事業費	400千円	250千円	250千円	農業水産課
合計	3,058千円	2,640千円	2,495千円	

■成果・課題と評価

成果	評価
・ごみ通信ちがさきや市民まつり、環境フェア等を通じて、生ごみ処理容器の周知啓発を行ったところ、91基の販売と家庭用生ごみ処理機22基の補助を達成しました。 ・使用済小型家電回収事業については、前年度の23拠点から26拠点に増設し、昨年度比約1t増の回収量を達成しました。 ・市民まつりにおいて分別ゲームを実施し、子どもを対象に遊びを通して適正分別の意識向上を図りました。	B A:極めて順調に進んでいる B:おおむね順調に進んでいる C:ある程度進んでいる D:あまり進んでいない E:積極的な取り組みが必要 -:取り組みなし(評価不能)
課題 ・適正分別をより徹底するために、1種類の資源物に絞って集中的に啓発するなど、引き続き周知方法の研究、検討が必要です。	